

①新興・途上国のマクロ経済モデル分析

②アジア途上国の経済開発、中国の台頭と日本のODA

いいの みつひろ
国際関係学科 **飯野 光浩**

●連絡先 TEL：054-264-5382 FAX：054-264-5382

キーワード

マクロ経済学, 開発経済学, 国際経済学,
新興・途上国, アジア経済



①新興・途上国のマクロ経済モデル分析

現在、中国、インドなどのBRICSに代表される新興国が世界経済で存在感を増している。これらの経済は先進国にない特徴をもっている。それは一国経済に占める農業部門の比率の高さである。現在の主流のマクロ経済モデルは基本的に先進国を想定しているので、生産部門として工業(製造業)のみを仮定して分析を進めている。

本研究では、その主流のマクロモデルに農業部門を導入した新興・途上国向けの開発マクロモデルを構築して、金融政策・財政政策のマクロ経済政策やその他の政策などが経済や農業部門、農村都市間労働移動などに及ぼす効果を理論的に研究・分析している。

②アジア途上国の経済開発、中国の台頭と日本のODA

アジア地域というと世界経済の成長エンジンということで注目されがちであるが、もちろんすべてのアジアの国が豊かであるというわけではない。ラオス、カンボジア、ミャンマーなどアジアにはまだ開発途上の国が多い。従来、これらの諸国の経済開発はメコン流域という地域の枠内での開発の観点から論ぜられることが多く、アジア開発銀行(ADB)などの国際機関もその観点から開発を促進している。

しかし、現在の状況を鑑みると、この観点は重要な点を見逃している。それはこのアジア途上国地域における中国の台頭である。ラオス、カンボジア、ミャンマーなどでは中国の多額の経済援助により、その存在感が増加している。日本は経済状況などにより政府開発援助(ODA)を削減しており、その中でいかに効率的にアジア途上国地域にODAを配分して、日本の存在感を高めていくかは重要な課題である。この課題を、関係者へのインタビューや資料収集などによる現地調査や各種統計データを用いて実証的に研究している。